

暮らしを拓く

千葉県障害者グループホーム等支援事業 連絡協議会 広報紙



巻頭インタビュー



社会福祉法人 薄光会

ケアホームCOCO 管理者

井上 利昭

〒299-1607 千葉県富津市湊1070-3
TEL: 0439-67-3711



「これからも、ひとり一人の人生に向き合い続けていきます。」と話す井上さん。

高齢化する障害者グループホームを考える

GHに住んでいる利用者の高齢化が問題になっている。65歳以降は介護保険を使って高齢者施設に移行する事もできるが、住み慣れたGHで生涯を終えたいと考える利用者も多い。これからのGHには何が求められるのか？

現在運営されているGHを教えてください。

令和6年の春に開所する棟も入れると、介護包括型のGHを8棟運営しています。定員が4名〜6名で合計36名が入居しています。区分は5と6で入居者の約9割程です。年齢は40代〜60代の方が多く、60代以上で全体の約3割になります。平均年齢も54歳位です。現在、建築中の棟が開所したら、4か所をバリアフリーの介護包括型として、もう4棟を日中サービス支援型に切り替えて運営をしたいと考えています。日中サービス支援型の一つのユニットの最大定員は10名なのですが、試算すると運営出来そうなので、定員は5名がベストだと考えています。入居者も支援者もゆったり過ごせますからね。

今入居中の方もどんどんと歳を重ねていきます。その方の足を



庄司氏は介護福祉士も取得し、高齢入居者の介護も行なう。廊下はバリアフリーに改築してある。

が不自由になってきたので、バリアフリーにリフォームしましたし、介護が必要になってきたので、職員がヘルパーや介護福祉士や喀痰吸引の資格を取ったりしてきました。意思表示をする事が難しい方でも、住み慣れたGHで出来る限り長く過ごしたいと思ってくれている...と勝手ながら考えています。ただ、最後は医療が必要になってくるので、医療従事者との連携も重要になっていくでしょう。

65歳を超えている入居者は介護サービスを利用していますか？

現在入居中の方は介護認定も受けておらず、サービスも利用していませんが、以前はデイサービスを利用していた方もいらっしゃいました。デイサービスは介護の目線で支援してくれるので、入居者の体調管理や健康維持で役に立つことも多かったです。お風呂にも入れますしね。受給できるのなら障害のサービスも維持しながら、介護サービスも利用する方が本人の為になると思います。一割の利用者負担もかかるのですが、障害年金と特別障害者手当を受給していれば金銭的にも無理なく利用できると思います。

デイケアでは問題なく障害者を受け入れしてくれましたか？

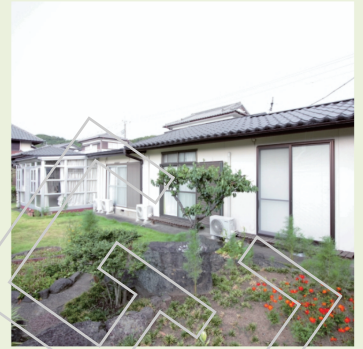
デイケアに行かれていた方はとても明るくて大人しい方だったので、人気者になったんです。介護職員と利用者が知的障害者と一緒にして欲しくないと思っている人もいます。ケアマネさんにも協力してもらって受け入れてもらえれば、障害者に理解を示してくれるいい機会になると思うのですが。

高齢者を障害者GHで支援するのに必要な職員のスキルはありますか？

喀痰吸引等研修は世話人さんも受けてもらっている最中です。でも、一番大切なのは「腰を痛めない」介護の仕方ですね。リフト等のサポートする器



広い庭には季節の花々が綺麗に咲いていました。玄関にも観葉植物とひまわり模様のカーテン。



平屋の一軒家内部をバリアフリーに改築。中には居室4室と食堂があり、お庭も広々としている。

具もあるのですが、手取り早く移乗しようとして腰を痛めてしまったりすることが多いです。同じ法人内に介護施設があるので、講師をお願いして指導し貰ったり、ユーチューブを見てもらいながら、みんなで研修をしています。

看取りまでやられた経験はありますか？

看取りまではありません。最後は入院しているのですが、最後まで看取れなかったのかと考えることはありません。ただ、職員も自分の勤務中に亡くなってしまうと不安に思うでしょうし、ご本人が本当に最後までGHに居たいと考えているのか、意思決定支援をどうするのか、訪問看護だけで対応できるのか、24時間対応できる病院

はどうするのか。考えるべき事は沢山あると思います。

高齢者が暮らす理想のGHとはどう思いますか？

本当はGHではなく、在宅で24時間支援が出来る暮らしだと思います。地域で当たり前のように障害者が受け入れられていて、当たり前のように暮らしていけるのが理想だと思います。でも、今の社会で障害者に限らず、高齢者も地域で暮らすにいく環境も整っているとは言えないです。選択肢として高齢者が暮らしていけるGHがあってもいいと思うのですが、簡単な事ではないと思います。ただ、ここで住み続けたいという人がいる限り、その環境を整えて行くしかないと思っています。少しでも楽しく過ごしてもらいたい：それだけなのです。



玄関にはAEDが設置され近隣の方も利用可能。車いすやスプリンクラーも配備されています。

今号の研修



GH等支援ワーカー連絡協議会では月に一回、地域のGHが抱えている課題についての考察を深めていくために、研修を行っています。今年には地域課題ごとに研究チームを作り、「医療的ケア」、「高齢化」「強度行動障害」に分かれています。地域で充足しきれないGHを増やしていく為に、現状のような課題があるのか？課題を克服していく為に、今後どのような事をしなければいけないのか？を、研究していきます。


8月は「障害福祉サービスと介護保険サービスの連携の実際と課題を知る」というテーマで、「富津市基幹相談支援センター」にて、「主任相談支援専門員 大森匠氏」、「有限会社なのなメイト 主任介護支援専門員 箱田純子氏」のお二人を講師に招いてお話を伺いました。


まずは介護制度について簡単に教えて頂いた後、実際に障害をお持ちの方が、65歳を超え



左が「なのなメイト 箱田純子氏」
右が「富津市基幹相談支援センター 大森匠氏」

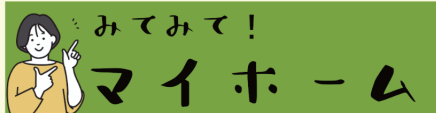
た後、どのような介護サービスを利用して行く方が多いのか、また、介護サービスを利用した際に、どのような弊害があるのかお話を頂きました。例えば高齢者のデイサービスに行かれても、とても面白いと感じる方もいれば、マッチしない方もいます。障害福祉に加えて介護サービスも利用できるようになること、その人ごとに細やかなサービスの調整が必要だと感じました。高齢の方がどのタイミングで高齢者施設に移るべきなのか。看取りをGHで行う事は可能なのかと、話題は膨らんでいきました。GHの入居者も高齢化が進んでいる状況で現状の制度の中で最良のサービスを考えるには、引き続きの研究が必要になると感じました。

各種GH向け研修の案内はこちら⇒ 

社会福祉法人 薄光会 ホームページ⇒ 

ヒロイチホームは鎌ヶ谷市の西佐津間（六実駅徒歩10分弱）の梨畑と広い児童公園に隣する閑静な住宅街に、2014年に1棟目を開設し、現在4棟の一軒家が目と鼻の先の距離に隣接されています。今回は代表の佐藤さんにお話を伺いました。

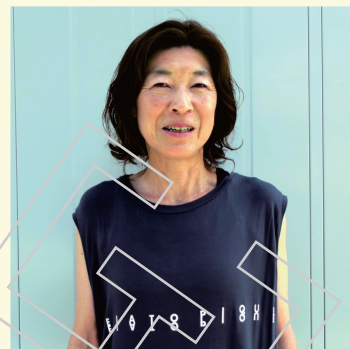
グループホームを作るきっかけは、佐藤さんの自閉症の息子さんの生活の場を探すために、いくつかあたってみたのだが、



ヒロイチホーム

佐藤 弘江氏

住所：千葉県鎌ヶ谷市西佐津間2-6-20 (1号館)
 : 千葉県鎌ヶ谷市西佐津間2-13-14 (2号館)
 : 千葉県鎌ヶ谷市西佐津間2-12-32 (3号館)
 : 千葉県鎌ヶ谷市西佐津間2-12-34-1 (S館)
 電話：047-779-9155
 HP：https://www.hiroichihome.com/



職員との信頼と連携を重視して、ごまめなミーティングを大切にしている、管理者の佐藤さん。

わが子を見ることが出来る施設を探すことはかなり難しく、合うところを探しまわるならいっそこの子に合う施設を、場を作るしかないと思いついて、すぐ行動に移したとのこと。

重度のグループホームという意識はなく結果的に重度の方が集まっていたそうです。ひとりひとりと大変な支援をチームで一体となって行っていく、ということが関連の事業者様方の信頼を得ることになり、結果同じような障害の利用者さんが集まってきた感じだそうです。

現在は14名入居中。区分6が8名、区分5が5名、区分4が1名。そのうち強度行動障害と認められる人が7名。男性6名女性8名。平均年齢は男性30歳代、女性40歳代です。

ヒロイチの強みは佐藤さんが正看護師の資格を持っていたということ。生活の場面では思ってたより、健康状態に関する問題は多く、やはり根拠のある判断ができることはスタッフや、またご家族にも安心感を持っていただくことが出来たと感じてます。また、4棟が本場に近く隣接されているため、スタッフ全員で協力しあって支援することが可能で、逆に言えばこの立地がスタッフの連携の強さの要因

の一つでもあると思います。もう一つ。なんととってもヒロイチスタッフの力です。毎週行われるミーティングでは、支援で困っていることの情報共有をし、問題の所在からどう支援していくのか？支援の統一を皆で考える時間を作っています。こちら側のやりやすい方法で支援をしていないかなど意思決定支援について常に意識できる職員を育てられています。

食べる事はとても重要とおっしゃる佐藤さん。買い物に行き旬のものを中心に献立を考えて各ホームで世話人が調理をするスタイルを開設当時から続けているとのこと。時々入居者全員でピザパーティー、お好み焼きパーティーをするのは、職員が楽しみたいから...との話に利用者や職員が喜んでいる笑顔が見たい佐藤さんの気持ちが伝わりました。

理想は入居者が時間をかけて



居室の中心にテーブルを設置し、リビングを見渡せるようにキッチンが配置されている。

少しづつ出来る事が増える事です。そして、そのことを家族が喜んでくれてスタッフに対して感謝の言葉が聞けると皆の満足につながり、毎日楽しく働いている様子がとても嬉しいと佐藤さんはおっしゃっていました。

最後に理想と今後の展望についてお聞きしました。7月より、新たにショートステイ、日中一時支援事業も始めることになりました。今グループホームの仕事をやって9年目になりましたが、私の本当にやりたいこと、目指すものは「母親支援」です。臨床での経験が利用者支援に役に立っているように、看護師時代にやっていた家族に関する研究活動が、今後の事業としてグループホームだけでなく幅広くお母様方のニーズにこたえられるよう視野を広げていきたいらと思えます。



栄養バランスと盛り付けにも気を使った美味しい食事。季節の色々なイベントも行なっている。

ヒロイチホーム
ホームページ

♪ 利用料金 ♪

家賃：4万円～5万円 光熱費：1万円
 日用品費：4千円 雑費など：2千円
 食費：朝食300円 昼夕食400円

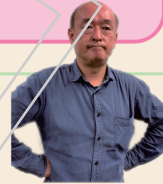
きとあいらく 起努逢楽



各圏域を奔走する GH 等支援
ワーカーを紹介するコーナー

印旛圏域 小林雄一

いんば けんいき こばやし ゆういち
いんば 中核地域生活支援センター すけっと
住所：佐倉市王子台4-28-12 T・第一ビル2階
電話：043-308-6325
メール：inba@chibaghw.org



年目を迎えました。
グループホーム（以下GH）
とは、街中から少し離れた場所
にあり数10名が入居している
施設のようなイメージを持って
いたのですが、実際は4〜5名
ほどの小規模なGHが地域に溶
け込むような形で点在している
ことに驚きました。



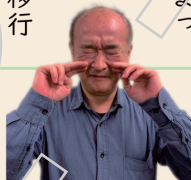
その一方で、障害がある方と
接する機会が少ない（ない）方
にとっては「平穏な生活が脅か
されるのではないか？」「何
かしらのトラブルに巻き込まれ
るのではないか
……？」このよう
に思っている方
は少なくないた
め、GH開設に

反対する近隣住民の声
で開設を断念した事業
所もありました。
とある事業所ではその
ような事態になっていないこと
を、早い段階でご相談いただいたこ
とで、事業所、自治体、GH等
支援ワーカーが連携し、自治会
の方々と地元住民の方々と意見
交換の場を設けました。集まっ
ていただいた方のほとんど
は障害がある方に対する理
解が進んでいなかったため、
障害種別や障害特性、地域移行
の流れやサポート体制を説明、
また、疑問や不安に思っている
ことは何でも構わないので聞か
せて欲しいとお願ひしました。



開催直後は怪訝そうな表情をし
ていた方々も、意見交換が終わ
りに近づくころに
はほっとした表情
に変わり、地域で
協力しながら見守
る意識・共生する意識が芽生え
始めた手応えを感じました。

それから数か月が経過した頃
にGHの管理者さんと話す機会
があったのですが、「ゴミ出し
のときに声掛けしたら返事を返
してくれなかった」「道ですれ違った
ときに会釈してくれなかった」等の話
が自治会長さんからあったと聞
き、少しずつ相互理解が進んで
いるのかと思ったら嬉しくなり



GH開設・運営にあたっては
地域との円滑な関わりが欠かせ
ませんが、地域で暮らす全ての
皆さんが障害に対する理解が進
んでいるとは言いい切れない部分
もあります。
そこで新規開設相談の際には
地域住民や自治会等に対して丁寧な説明を実施することをお勧めし、上
記事例のように必要に
応じて説明会等に同席
することも提案してい
ます。

私たち障害者GH等支援ワ
ーカーは今後も千葉県の連絡協議
会や各圏域の連絡協議会を通じ
て、障害がある方の暮らしの理
解を深めるべく啓発活動を積極
的にやりたいと思っております。

印旛圏域概況

(令和5年8月1日現在)

- 事業所数：72事業所
- 定員：915名
- ホーム定員数
- 介護サービス包括型：786人
- 日中サービス支援型：60人
- 外部サービス利用型：69人
- サテライト型住居：11戸

今号の題字



今回取材させて
いただいたケア
ホームCoCoの
介護福祉士・庄司
さんが、「僕たち
も利用者さんに愛
着を持っていて
ら、ずっとみてあ
げたいんです」と
おっしゃっていま
した。利用者さん
と日々向き合っ
ていく中で自然
と芽生えてくる
こうししたお気持
ちを、大切に
していきたいで
す。ようやく秋
めいてきた今日
この頃。猛暑の
疲れが出やすい
時期でもあります。
皆様お体を
ご自愛ください。

編集後記



ホームきらく 中村光子様

今号の題字は、松戸市の社会福祉法人彩会をご利用の方向名か
に依頼をさせて頂きました。その中から弾むような楽しそうな
字を描かれていた、中村光子様の題字を選びました。






GH等支援事業のホームページ

元ツイッター

現Xのページ